

けんぼんちやくしよくしや かじゅうろくぜんじんず
絹本著色釈迦十六善神図

県指定有形文化財（絵図）

竹原の龍雲院に「絹本著色釈迦十六善神図」と呼ばれる^{かけず}掛図が所蔵されています。鎌倉後期の作と推定され、釈迦仏画として高い品格を備え、巧みな描画技法や細密な切金が駆使されています。誠に優れた仏画で、昭和 60 年に県指定文化財に指定されました。

「十六善神図」は「大般若祈祷会」と呼ばれるご祈祷の際、本尊として掛けられます。このご祈祷には、とてご利益のあるお経「大般若経」^{だいほんにやきょう}（※）が用いられ、昔は、病氣平癒や安産祈願などを願ってこのお経が上げられました。今でも、国家安泰や町・村の防災招福を願って各地で行われます。

同院の十六善神図は、三幅^{さんぶくいつつい}一対で、中央には釈迦如来^{しゃかによらい}、左右の幅には大般若経を守護する十六善神や菩薩などが描かれています。十六善神のさまざまな表情や姿勢が細かい線で生き生きと描かれ、諸菩薩らの高貴な容貌もよく描き分けられています。着彩も丁寧で、朱、緑青、群青、金泥^{しゅ ろくしょう ぐんじょう きんでい}が用いられ、着衣^{かつちゅう}や甲冑、頭髪や髭なども巧に描き出されており、他の国指定重要文化財の十六善神図に匹敵する作品とも言われています。



竹原龍雲院所蔵「絹本著色釈迦十六善神図」。㊸善神図 縦107.5cm×横40.0cm ㊹釈迦尊図 縦107.5cm×横40.0cm ㊺善神図 縦107.8cm×横40.0cm

この十六善神図は、明治 4 年に神戸市有馬温泉の温泉寺から大般若経 600 巻と共に譲り受けました。剛力（力持ち）6 人で背負って運んできたものです。近年痛みがひどくなったため、平成元年から 3 年かけて京都の文化財専門業者に修復してもらいました。現在は、毎年 4 月 3 日に同院で行われる大般若会でご開帳しています。

同院には、十六善神図と一緒に譲られた「冥土蘇生記」^{めいどそせいき}も所蔵されています。温泉寺奥院の住僧が 4 度冥

途に赴き、4 度蘇生する物語で、「平家物語」の成立に関わる貴重な資料となっています。

※＝数多くあるお経を集大成したもの。巻数は 600 巻。西遊記で有名な玄奘三蔵法師^{げんじょうさんぞうほうし}が翻訳した。

南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二
平成 27 年 3 月 1 日号 市報なんよう掲載